

\\ 寝屋川を知る夏になる！ //

平成 30 年度

ねやがわ若者会議

報告書

(平成 30 年 8 月 9 日開催)

平成 31 年 1 月



# 目次

---

<b>1 はじめに</b> .....	P. 1
■ ねやがわ若者会議とは .....	P. 1
<b>2 参加者からの意見等</b> .....	P. 4
■ 寝屋川市のイケているところ・イケていないところ .....	P. 4
■ SIM ねやがわ 2030 .....	P. 7
■ 10年後の寝屋川市はどうなっていたら良い? .....	P.12
■ 寝屋川市は5点満点中何点か。それを満点にするためにはどうすればいいか。 .....	P.13
■ ねやがわ若者会議の感想を漢字1文字で表現 .....	P.15
<b>3 参加者からの市政に対する意見</b> .....	P.18
<b>4 ファシリテーターからのコメント</b> .....	P.23
■ 会議総括 .....	P.23
<b>5 おわりに</b> .....	P.24
■ 主催者としての感想 .....	P.24
<b>【参考】 ねやがわ若者会議に関するアンケート結果</b> .....	P.25

# 1 はじめに

## ■ ねやがわ若者会議とは

### ○ 会議開催の目的

本市では、人口減少の歯止めに積極的に対応するため、寝屋川市に「住みたい」「住み続けたい」と思っただけのための取組を進めており、特に、若い世代の方々にとって魅力的なまちとなるよう、まちのイメージアップに努めているところです。

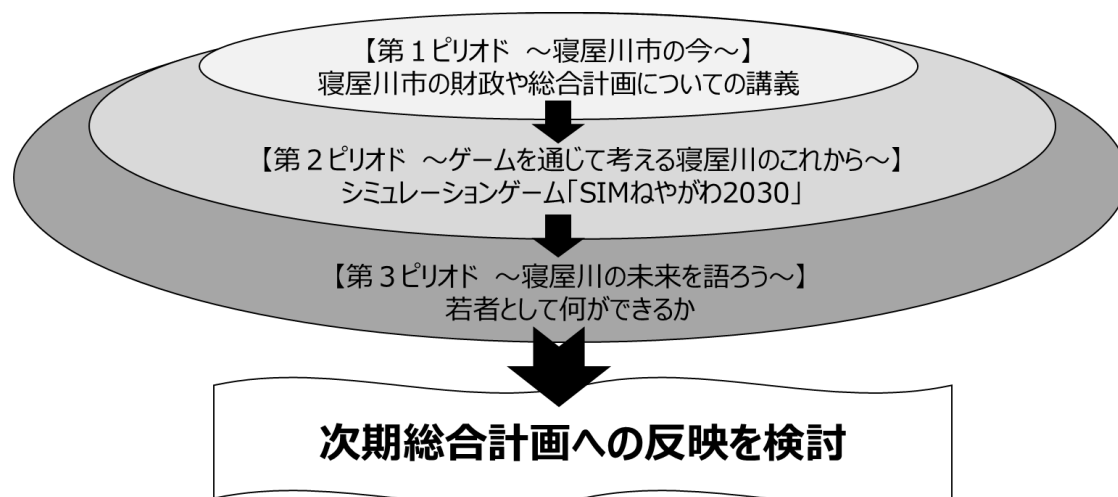
本会議は、いつまでも住み続けたいと思っただけ、「笑顔が広がるまち」の実現に向けて、若い世代の視点で、普段感じておられる寝屋川市に対する思い、考えなどについて自由に発言していただき、そこで出された意見等を踏まえ、今後、寝屋川市において実施すべき施策を検討することを目的として開催したものです。

本市では、現在、平成32年度（2020年度）を初年度とする次期総合計画（第六次寝屋川市総合計画）の策定に取り組んでおり、本会議で出された意見を次期総合計画（第六次寝屋川市総合計画）の策定の参考とさせていただきます。

### ○ 実施手法

本会議では、まず、第1期間として、寝屋川市の財政や総合計画についての講義を行い、その講義を踏まえて、第2期間では、参加者が架空の自治体の幹部職員となって将来のまちづくりを行うシミュレーションゲーム「SIM ねやがわ2030」を体験しました。その後、第3期間では、ワールドカフェ方式を採用したグループワークなどで、寝屋川市の未来を語り合ってもらいました。

※ ワールドカフェ方式とは、参加者が4～5人程度の小グループに分かれて、自由に意見交換等を行い、決まったグループに固定せず、ワークごとにメンバー替えを行い、より多くの人の意見や考えを共有することで、多様な知恵や考えの創出を行う手法です。



○ 開催概要

( 日 時 )

平成 30 年 8 月 9 日 ( 木 ) 午前 10 時から午後 4 時 45 分まで

( 場 所 )

寝屋川市立市民会館 2 階 第 1 会議室

( 対象者 )

寝屋川市に住み、働き、学び又は活動する中学生以上 30 歳未満の方

( 参加者 )

	男性	女性	合計
中学生	5 人	7 人	12 人
高校生	7 人	4 人	11 人
大学生・大学院生	8 人	2 人	10 人
社会人	3 人	7 人	10 人
合計	23 人	20 人	43 人

( 参加学校・企業名 ) ( 順不同 )

寝屋川市立第一中学校	寝屋川市立第二中学校	寝屋川市立第四中学校
寝屋川市立第五中学校	寝屋川市立第八中学校	寝屋川市立第九中学校
寝屋川市立第十中学校	大阪府立寝屋川高校	摂南大学
摂南大学大学院	龍谷大学大学院	枚方信用金庫

( 会議テーマ )

『寝屋川の未来を語ろう ～対話を通じて考えるこれからの私たちの姿～』

中学生、高校生、大学生（大学院生を含む。以下「大学生」といいます。）、社会人が均等になるよう 10 のグループに分け、市から総合計画、市の財政、予算の編成方法等の講義（第 1 ピリオド）を受講していただいた上で、第 2・3 ピリオドにおいては、以下のテーマについて意見交換を行いました。

<第 2 ピリオド> ～ゲームを通じて考える寝屋川のこれから～

- ・ SIM ねやがわ 2030

<第 3 ピリオド> ～寝屋川の未来を語ろう～

- ・ 10 年後の寝屋川市はどうなっていたら良い？
- ・ 現段階で寝屋川市を 5 点満点で表したら何点か
- ・ それを 5 点満点にするためには何をすればいいか
- ・ 若者として何ができるか

( タイムスケジュール )

時間	内容
9:30～	参加者等の受付
10:00～	事務局から開会のあいさつ
10:10～	<p>●第1ピリオド ～寝屋川市の今～</p> <p>担当課（企画政策課）からの説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 寝屋川市の総合計画の説明</li> </ul> <p>ファシリテーターによる会議進行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 住みたいと思うまちについてのワークショップ（イけているところ・イけていないところ）</li> </ul>
10:55～	休憩（15分）
11:10～	<p>担当課（財政課）からの説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 寝屋川市の財政、予算の編成方法等の講義</li> </ul>
11:55～	昼休憩（50分）
12:45～	<p>●第2ピリオド ～ゲームを通じて考える寝屋川のこれから～</p> <p>事務局（企画政策課）による会議進行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ SIM2030の説明</li> <li>【第1ラウンド】 2020年から2025年</li> <li>【第2ラウンド】 2025年から2030年</li> <li>【第3ラウンド】 なりたかった“まち”になりましたか？</li> </ul>
14:50～	休憩（20分）
15:10～	<p>●第3ピリオド ～寝屋川の未来を語ろう～</p> <p>ファシリテーターによる会議進行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 10年後の寝屋川市はどうなっていたら良い？（ワールドカフェ）</li> </ul>
16:00～	休憩（10分）
16:10～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現段階で寝屋川市を5点満点で表したら何点か</li> <li>・ それを5点満点にするためには何をすればいいか</li> <li>・ 若者として何ができるか</li> </ul> <p>&lt;会議の感想&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会議の感想を漢字1文字で表すとしたら</li> </ul>
16:45	閉会

○ ファシリテーター（会議進行役）

【氏名】 加留部 貴行氏

【プロフィール】 九州大学大学院統合新領域学府 客員准教授

日本ファシリテーション協会フェロー

日本ボランティアコーディネーター協会理事 他

## 2 参加者からの意見等

### ■ 寝屋川市のイケているところ・イケていないところ

市の職員から総合計画についての説明を受けた後に、現時点で参加者が思っている寝屋川市の「イケているところ」「イケていないところ」について、付箋に記入し、その内容についてグループごとに話し合ってもらいました。参加者から出た意見は以下のとおりです。

#### ○ 寝屋川市のイケているところ

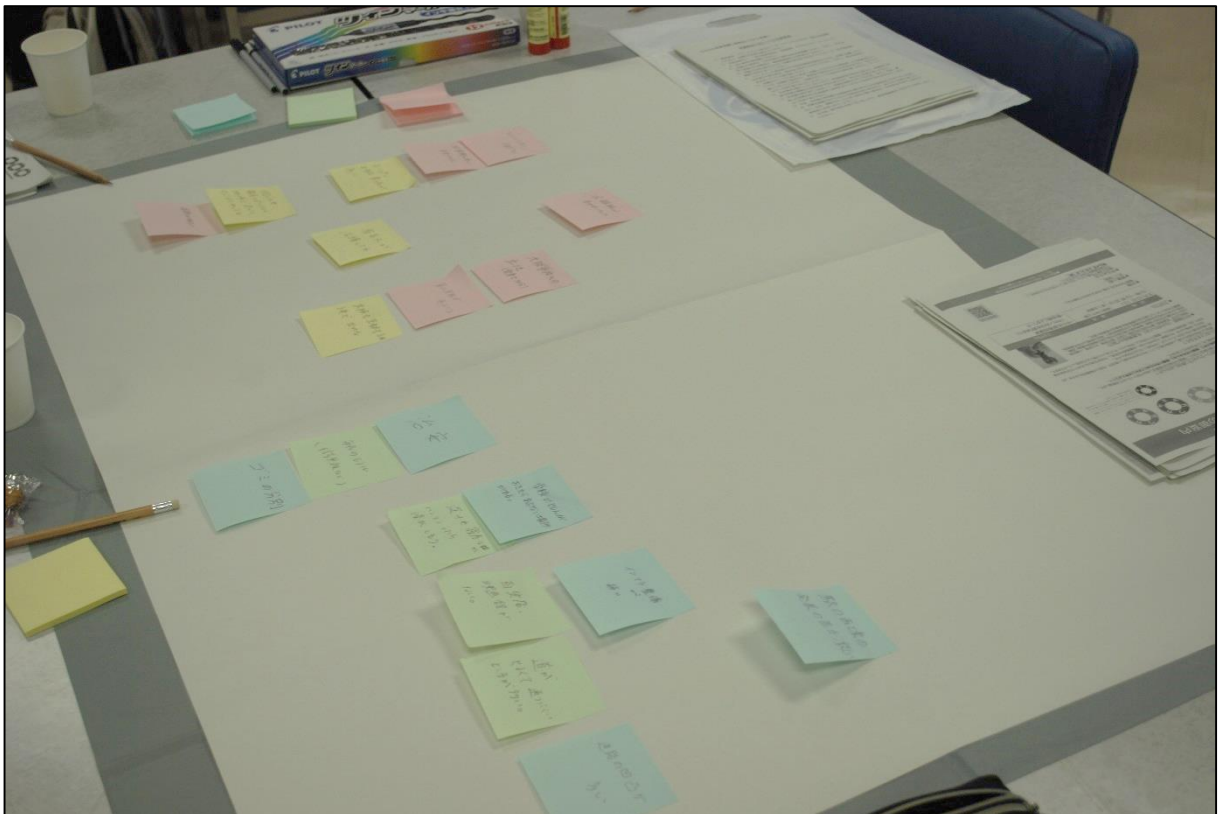
( 参加者の主な意見等 )

区分	世代	主な意見（要旨）
まちの魅力	中学生 高校生 大学生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 京都・大阪共にアクセスしやすい</li> <li>・ 土地価格や家賃が安い</li> <li>・ 市広報誌が見やすい</li> </ul>
	社会人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 京都・大阪共にアクセスしやすい</li> <li>・ 地域の人が温かい</li> </ul>
安心・安全	中学生 高校生 大学生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 街路灯が明るい</li> </ul>
	社会人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然災害が比較的少ない</li> </ul>
まちづくり	中学生 高校生 大学生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 駅前が整備されている</li> <li>・ 幹線道路が多いため、外出しやすい</li> </ul>
	社会人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 駅前が整備されている</li> <li>・ 大きな公園が3つもある</li> </ul>
子育て・教育	中学生 高校生 大学生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 待機児童がゼロである</li> <li>・ 高校生世代まで医療費助成がある</li> <li>・ 駅前図書館に自習室がある</li> <li>・ 子育てしやすいまちランキングが1位である</li> <li>・ 教室にエアコンが設置されている</li> </ul>
	社会人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図書館が充実している</li> </ul>
住環境	中学生 高校生 大学生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スーパーやコンビニが多い</li> <li>・ 駅周辺で身近な買い物を済ませられる</li> </ul>
	社会人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スーパー、病院等が多い</li> </ul>

○ 寝屋川市のイケていないところ

( 参加者の主な意見等 )

区分	世代	主な意見 (要旨)
まちの魅力	中学生 高校生 大学生	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪れるような魅力がない</li> <li>ランドマークとなる場所が少ない</li> <li>行政の発信情報が少ない</li> </ul>
	社会人	<ul style="list-style-type: none"> <li>他市在住の人に勧められる魅力がない</li> <li>子育てが落ち着いてからや退職後の社会復帰等の支援施策が少ない</li> </ul>
安心・安全	中学生 高校生 大学生	<ul style="list-style-type: none"> <li>パトカーをよく見かけるため、物騒である</li> <li>痛ましい事件が多い印象である</li> <li>治安が悪い</li> </ul>
	社会人	<ul style="list-style-type: none"> <li>犯罪多く、治安が悪いイメージが定着している</li> <li>淀川や寝屋川からの浸水が不安</li> </ul>
まちづくり	中学生 高校生 大学生	<ul style="list-style-type: none"> <li>密集住宅地が多い</li> <li>道路が狭いところが多い</li> </ul>
	社会人	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路が狭いところが多い</li> </ul>
子育て・教育	中学生 高校生 大学生	<ul style="list-style-type: none"> <li>公園でボール遊びをできるところが少ない</li> </ul>
	社会人	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育料が無償化されていない</li> </ul>
住環境	中学生 高校生 大学生	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポイ捨てが多い</li> <li>娯楽が少ない</li> </ul>
	社会人	<ul style="list-style-type: none"> <li>遊び場が少ない</li> </ul>





## ■ SIM ねやがわ 2030



### SIM ねやがわ 2030 とは・・・

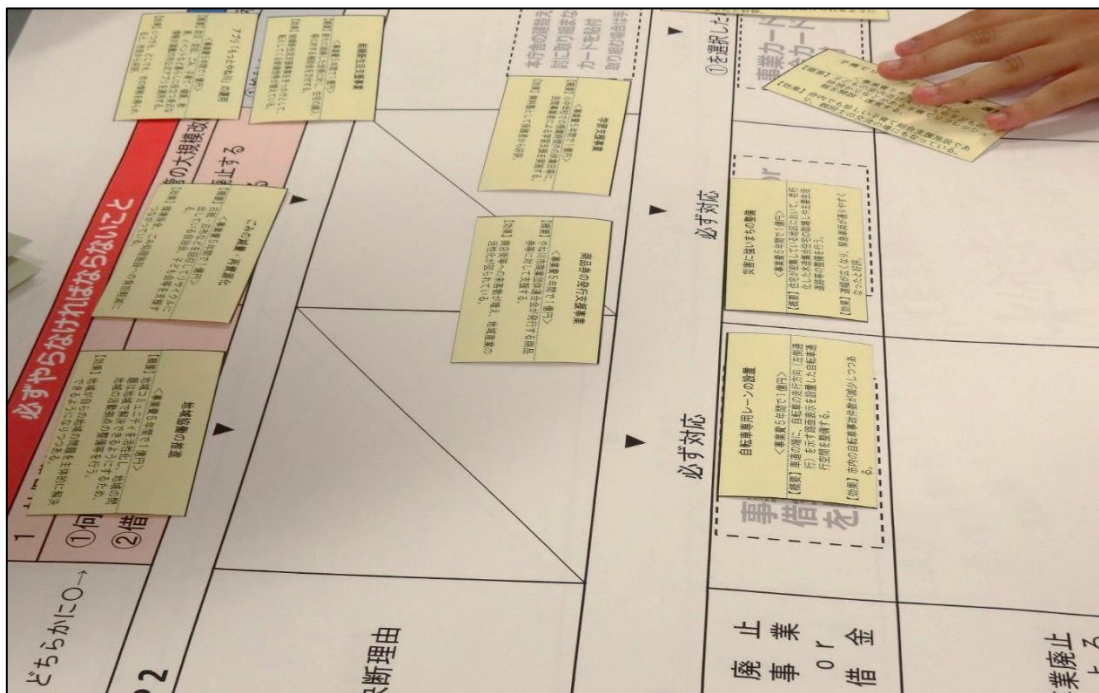
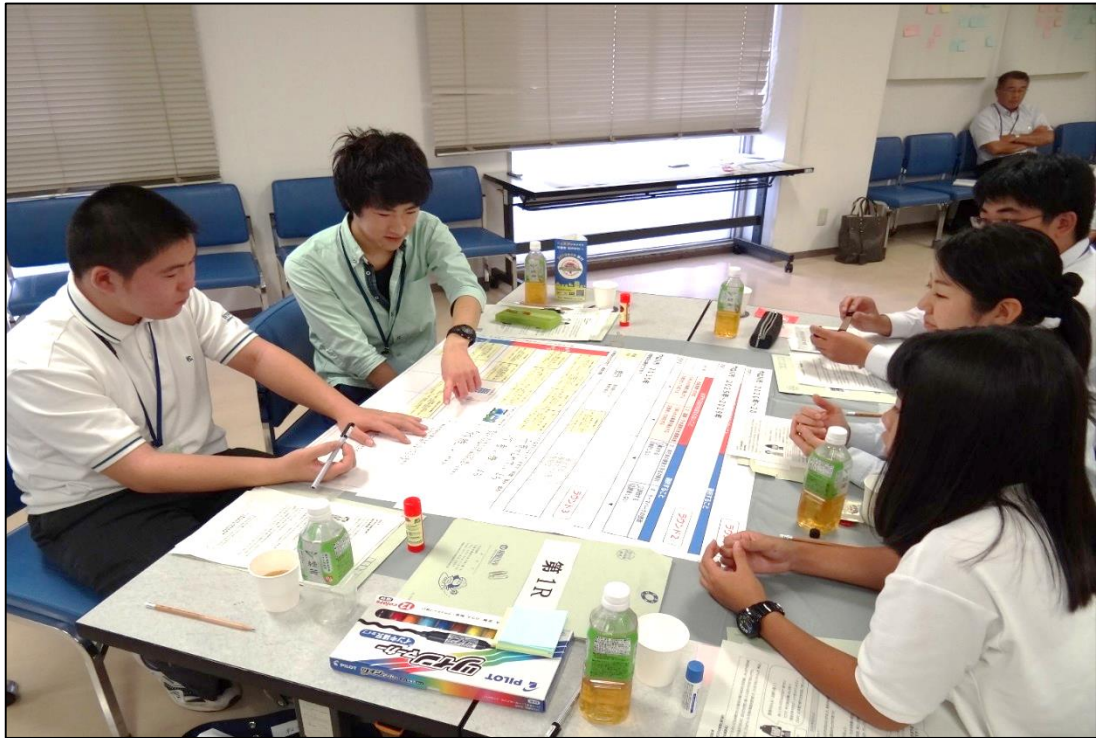
SIM（シム）とは、参加者が架空の自治体の幹部職員となって将来のまちづくりを行う「対話型自治体経営シミュレーションゲーム」のことであり、熊本県庁職員が作成した「SIM熊本 2030」を基に、各自治体が御当地版 SIM を作成して研修等で取り組んでいます。

今回、ねやがわ若者会議のために、寝屋川市版の「SIM ねやがわ 2030」を作成し、参加者には、ゲームを通じてこれからの寝屋川市について考えてもらいました。

「SIM ねやがわ 2030」では、参加者が架空の自治体「やね川市」の部長（幹部職員）に任命され、限りある予算の中で、新たな政策課題に対応するため、事業を取捨選択し、「やね川市」の予算案を作成していきます。この予算案は議会で説明し、可決されなければなりません。最後に振り返りとして、2030 年にどんなまちになっているかなどについて、話し合ってもらいます。

○ 概要

各世代（中学生・高校生・大学生・社会人）の参加者が均等になるよう、グループ分けをしました。各グループが一つの架空の自治体「やね川市」として、2020年から2024年まで、2025年から2029年までの予算案を作成してもらいました。その後、2030年時点で「やね川市」がどういったまちになったかを振り返ってもらいました。



2020年及び2025年には、各グループが作成した5年間の予算案に対して、別のグループが市議会議員役となって予算案の審議を行いました。



予算案の審議においては、参加者同士で白熱した議論が行われ、施策・事業の取捨選択の難しさ、議会への説明の大事さなどを実感したとの声がありました。

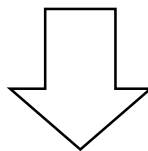
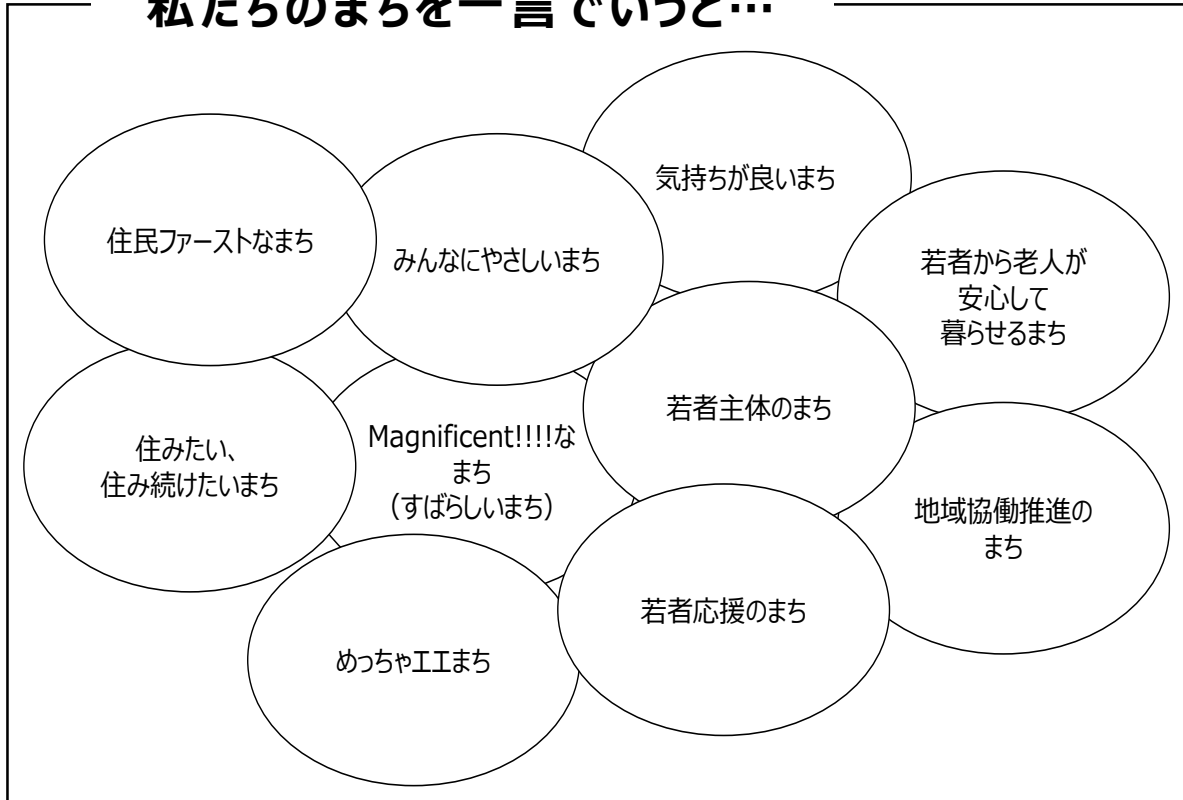
また、2030年には、これまでのまちづくりを振り返って、「自分たちのまちはどういったまちになっているのか」について話し合ってもらいました。



○ どんなまち

2030年までに取捨選択して残っている事業及び廃止した事業を踏まえると、どんなまちになったのかを考えてもらいました。参加者から出た内容は以下のとおりです。

私たちのまちを一言でいうと…



私たちのまち	まちの強み等
めっちゃIIまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新たな住民を確保しつつ、既存の住民も住みやすくなっている</li> </ul>
若者応援のまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 若い世代を支援し、市への定着を図る</li> <li>・ <b>子育てしやすい環境</b></li> </ul>
地域協働推進のまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 住む人が多い</li> <li>・ 地域が強い</li> <li>・ 財政が安定している</li> </ul>

私たちのまち	まちの強み
若者主体のまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 若い世代を呼び込む</li> <li>・ 環境が良い</li> <li>・ <b>子育て支援</b></li> </ul>
若者から老人が安心して暮らせるまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>安全</b></li> <li>・ 観光客を誘致する</li> </ul>
住みたい、住み続けたいまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>子育てしやすい</b></li> <li>・ <b>災害に強い</b></li> </ul>
Magnificent!!!!なまち (すばらしいまち)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活気があり、新しい世代が住みやすい</li> <li>・ 大阪府外からも来やすい</li> </ul>
気持ちの良いまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>安全・安心で住みやすい</b></li> <li>・ <b>子どもを育てやすい</b></li> </ul>
みんなにやさしいまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>防災、防犯に強く、安心</b></li> <li>・ <b>子育て世代が住みやすい</b></li> <li>・ 高齢者に優しい</li> </ul>
住民ファーストなまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 住民に住み続けたい、暮らしやすいと思ってもらえる</li> </ul>

◆ 参加者の SIM ねやがわ 2030 を終えた感想

- ・ 予算を意識して、事業を検討しなければならないと分かった。
- ・ 何を軸として事業を取捨選択していくのかを考えないと、意図しない結果になることが分かった。
- ・ 引越しをするときに、住居の家賃や交通の利便性しか考慮していなかったが、どのような事業をしているかを考慮することも大事だと思った。
- ・ 取っつきづらい事業も、ゲームを通してであれば、分かりやすく取捨選択できた。
- ・ 普段生活していると分からないが、行政も色々なことを考えて仕事をしていることが分かった。

■ 10年後の寝屋川市はどうなっていたら良い？

SIM ねやがわ 2030 を通じて、2030 年を仮想体験し、様々な意見を見聞きした上で、今から 10 年後の寝屋川市をどんなまちにしてみたいかを、グループごとにテーブルの上の模造紙に書き込みました。その後、各テーブルに 1 人を残して、残りのメンバーには他のグループに移動してもらい、テーブルに残っていた 1 人が他のテーブルから移動してきた人に対し、そのグループで出た意見を、また、その他のグループから移動してきた人から、元になっていたグループで出ている意見を共有してもらいました。

参加者から出た主なキーワードは以下のとおりです。

( 参加者の主な意見等 )

主なキーワード	
子育てがしやすいまち	コンパクトシティ
緑が多いまち	高齢者にやさしいまち
イベントや祭りが多く活気のあるまち	<b>安全・安心なまち</b>
災害に強いまち	結婚後の人生が過ごしやすいまち
働きながら子育てできるまち	<b>災害時に支えあえるまち</b>
笑顔があふれて明るいまち	元気な企業が多い、働きやすいまち
星空が見えるまち	また戻りたいと思えるまち
健康な市民が多いまち	誇れるものがあるまち
ランドマークがあるまち	暮らしていて楽しいまち



ここでも、

**「子育て」「安全・安心」**

といったキーワードが多く見られました。

■ 寝屋川市は5点満点中何点か。それを満点にするためにはどうすればいいか。

10年後の寝屋川市をどのようなまちにしたいかを参加者で共有した上で、改めて今の寝屋川市を見たときに、現時点で5点満点中何点かを評価してもらいました。

また、その点数を満点にするためにはどうすればいいか、また若者として何ができるかを考えてもらいました。参加者から出た主な意見は以下のとおりです。

世代	平均点数	こうすれば5点に近づくとと思うこと（要旨）
中学生	2.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・犯罪をしにくい環境にする</li> <li>・まちをキレイにする</li> <li>・犯罪などを少なくして、子どもから老人までたくさんの人が住みやすいまちにする</li> <li>・災害に強いまちにする</li> <li>・インフラを強化する</li> <li>・青少年の犯罪を減らす</li> <li>・教育水準を向上させる</li> </ul>
高校生	2.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全・安心なまちにする</li> <li>・報道の機会を増やす</li> <li>・犯罪を減らす</li> <li>・治安を改善させる</li> <li>・夜に安心して行動できるきれいなまちにする</li> <li>・交通の利便性を更にいかす</li> </ul>
大学生	2.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・治安を改善させる</li> <li>・安全・安心なまちにする</li> <li>・交通網を整備する</li> <li>・若者が集まり、遊ぶことができる商業施設を誘致する</li> <li>・景観を向上させる</li> <li>・寝屋川市らしさをつくる</li> <li>・市内向け及び市外向けの施策を充実させる</li> </ul>

世代	平均 点数	こうすれば5点に近づくとすること（要旨）
社会人	2.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・街灯、防犯カメラを増やす</li> <li>・市のイメージの向上</li> <li>・子育て環境、教育環境の充実</li> <li>・市民が誇れるもの（ランドマーク等）をつくる</li> </ul>



世代	若者として何ができるか（要旨）
中学生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールを守る</li> <li>・犯罪をしない、巻き込まれないように普段の学校生活から見直す</li> </ul>
高校生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会マナーを守る</li> <li>・防犯活動への参加</li> <li>・市の行事に参加する</li> <li>・地域の事業に積極的に参加する</li> <li>・ごみを見つけたら拾う</li> </ul>
大学生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公務員になる</li> <li>・寝屋川市の魅力や情報を自らが積極的に発信する</li> <li>・社会マナーを守る</li> <li>・自分の意見を発信する</li> <li>・選挙で投票する</li> <li>・市の行事に参加する</li> </ul>
社会人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の行事に参加する</li> <li>・地域住民との協力</li> <li>・防犯活動への参加</li> <li>・寝屋川市の魅力や情報を自らが積極的に発信する</li> <li>・意見を言える場に参加する</li> </ul>



■ **ねやがわ若者会議の感想を漢字 1 文字で表現**

最後に、会議を振り返り、感じたこと、思ったことなど、本日の会議の感想として漢字 1 文字と「そのココロ」を付箋に記入しました。

※ ( ) 内の数値は、同じ漢字を書いた人数を表しています。

中学生	考 (2)	楽 (2)	関	若	驚
	知	助	加	交	幸
高校生	強	温	考	高	知
	為	寝	語	町	想
	輪	/			
大学生	未 (2)	沸	伝	敬	建
	見	共	考	交	/
社会人	聴 (2)	関	共	夢	希
	人	交	向	時	/

( 参加者の主な意見 )

※ コメント欄には、参加者の御意見を原文のとおり掲載しています。

漢字	区分	人	コメント
考 (4人)	中学生	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考えなければ、まちは作れないことを知ったから。</li> <li>・ 自分の意見を『考える』機会がたくさんあり、色々な事について『考える』ことができたから。</li> </ul>
	高校生	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 寝屋川のことについて「考」えることができたし、これからのことについて「考」えるきっかけになった。</li> </ul>
	大学生	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いっぱい考えた。</li> </ul>
交 (3人)	中学生	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ たくさん交流などできたから。</li> </ul>
	大学生	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 初めましての人と交流し、寝屋川のことについて楽しく話し合えた。</li> </ul>
	社会人	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出会って交流して様々なことを共に学ぶことができたから。</li> </ul>
知 (2人)	中学生	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 色々な立場から意見が出て、新しく知ることたくさんあったから、この知識を大切にしようと思った。</li> </ul>
	高校生	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いろいろと知ることができたから。</li> </ul>
楽 (2人)	中学生	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 未来の寝屋川を想像してたくさんの人と交流したのが楽しかった。</li> <li>・ ふつうにめっちゃ楽しかった。</li> </ul>
関 (2人)	中学生	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関心を持つ、市政に関わる、今回のような行事に関わる、意見を交わして多くの人と関わる。</li> </ul>
	社会人	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 色々な所属の人と関わり、寝屋川市のことに改めて関心を持つことができた。</li> </ul>

漢字	区分	人	コメント
未 (2人)	大学生	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が未熟だと感じた、未来について考えるいい機会になった。</li> <li>若者がまちの未来を考えていくことがすばらしいとおもいます。</li> </ul>
共 (2人)	大学生	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>共に共感できた。</li> </ul>
	社会人	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報を「共有」できた。</li> <li>「共同」して活動できた。</li> <li>「共存」できる未来を話し合うことができた。</li> </ul>
聴 (2人)	社会人	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>周りの意見を聴き、自分では思いつかない考え等が多くあったので、新しい発見、勉強になりました。</li> <li>聴くことの大切さを改めて感じた。「聴（ゆる）す」と読めるのもすごい！徐々に気をゆるし、楽しく話すことができた。</li> </ul>

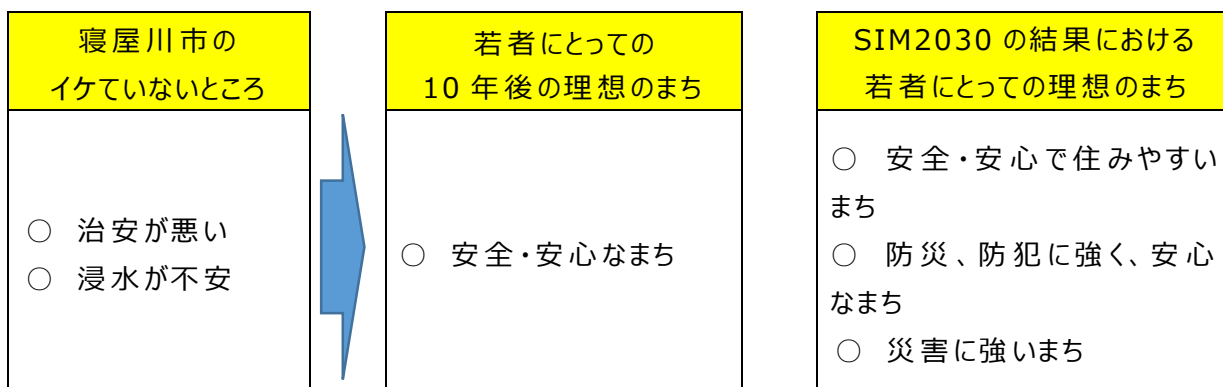


### 3 参加者からの市政に対する意見

本会議では、参加者である若者から、長時間に亘るワークショップ等を通して、市政に対する多くの意見をいただきました。

これらの貴重な御意見を、平成 32 年度を計画初年度とする次期総合計画（第六次寝屋川市総合計画）の策定に際して、参考となる主な意見について、以下のとおり取りまとめました。

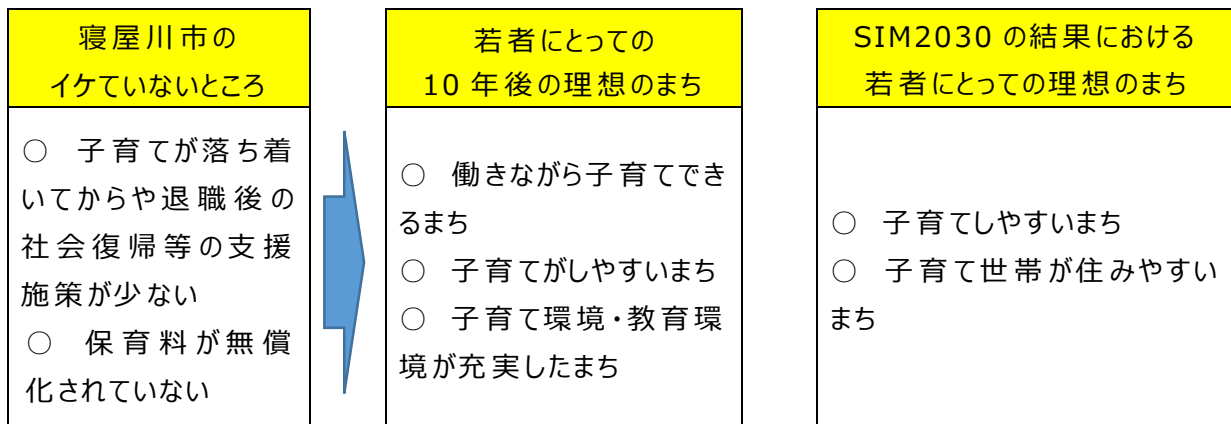
#### ○ 安全で安心できるまち



#### 寝屋川市の現在の主な取組

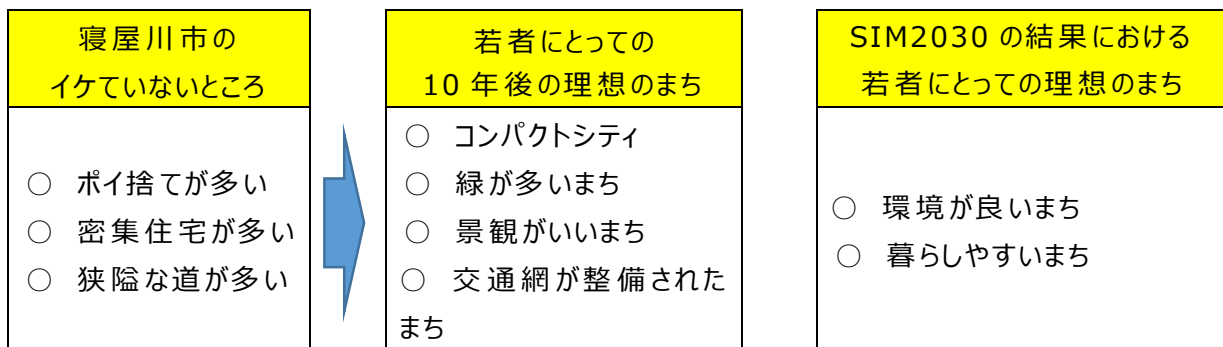
- 警察等と連携しながら、各種関係団体によるパトロール活動や深夜防犯パトロール等を実施しています。
- 高宮ポンプ場整備事業、古川雨水幹線整備事業などの下水道施設、校庭貯留浸透施設設置などの建設事業を行うとともに、家庭における雨水貯留タンクや止水板の設置費に対する支援事業を行い、浸水対策に取り組んでいます。
- 平成 32 年度までに市内に 2,000 台の防犯カメラを設置するなど、防犯環境の整備に努めています。

## ○ 安心して子どもを産み育てることができるまち



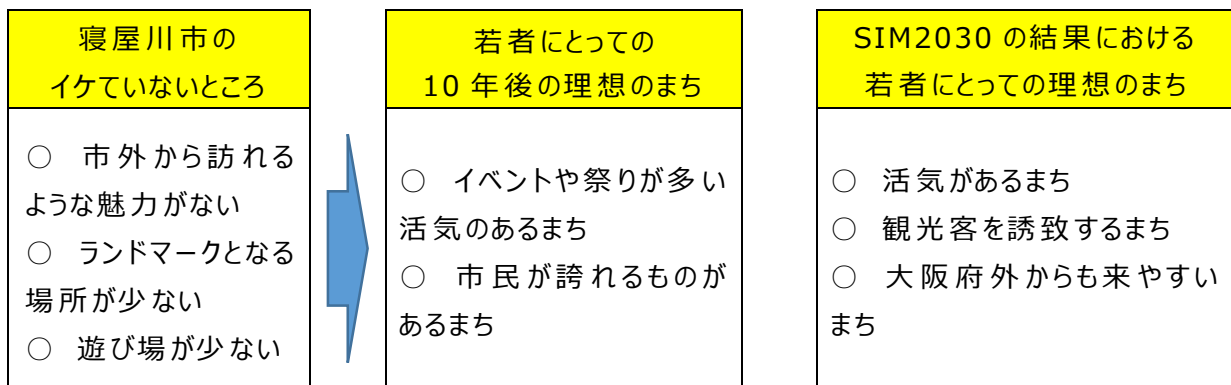
寝屋川市の現在の主な取組
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 妊娠期から専門的なサポートが受けられるよう子育て世代包括支援センターを設置し、子育てまで切れ目ない支援を行っています。</li> <li>○ 妊娠届出時に保健師等が面談し、支援プランを作成し、短時間勤務制度・看護休暇制度などの子育て支援制度の紹介を行っています。</li> <li>○ 子育てリフレッシュ館（RELATTO）を開設し、携帯アプリから24時間予約可能である時間単位の一時的預かり、市内外から利用可能な遊びスペースの開放、リフレッシュ講座などを実施するとともに、市内12か所の地域子育て支援拠点において子育て支援施策を実施しています。</li> <li>○ リフレッシュ館（RELATTO）や市内の民間保育園において、保護者の求職活動時等にも利用できる未就学児を預かる一時的預かり事業を実施しています。</li> <li>○ 子育て中の人を対象とする就労相談窓口である出張マザーズコーナーを、月2回子育てリフレッシュ館（RELATTO）で開催し、仕事と子育ての両立を目指す人を支援するとともに、ねやがわシティ・ステーションに市の就労相談窓口とハローワーク職業紹介コーナーを設置するなど、女性を対象とした就労支援等に取り組んでいます。</li> <li>○ 年間を通じた待機児童解消を図るため、待機児童ZEROプランを推進しています。</li> <li>○ 保育所保育料については、年収360万円未満世帯の第2子以降の保育料を無償化、幼稚園保育料については、年収360万円未満世帯の兄弟の年齢制限を撤廃し、3子目以降は無償としています。また、年収360万円未満の一般世帯について、第1子目及び第2子目について保育料を減額しています。</li> <li>○ 教育大綱の基本方針の一つである「生きる力、学ぶ力を育む」施策・事業を推進するとともに、教育・保育関係機関、家庭、地域との連携の下、幼児一人一人の発達過程における特徴、課題に応じた教育の充実と小学校への円滑な接続を行っています。</li> <li>○ 平成30年度から、児童の安全・安心を確保するため、市立小学1年生に、保護者の携帯端末等で自身の子どもの位置情報が確認できるよう通信端末（GPS端末）を貸与しています。</li> </ul>

## ○快適でうるおいのあるまち



寝屋川市の現在の主な取組
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 寝屋川市美しいまちづくり条例を定め、たばこ、空き缶などのポイ捨てを禁止し、市内4駅で市民と協働して条例の啓発を行うとともに、市民にポイ捨て禁止の意識を持ってもらえるよう、地域の各種団体による清掃活動、駅前清掃等を実施しています。</li> <li>○ 密集住宅地区（萱島東、池田・大利、香里）の解消を図るため、主要生活道路の拡幅整備を推進するとともに、建物所有者に対し、市広報誌や各公共施設等において、老朽木造集合住宅除却費等補助制度の周知を行っています。</li> <li>○ 平成30年4月に策定した「寝屋川市立地適正化計画」に基づき、居住誘導区域に住宅の誘導及び駅周辺等における都市機能誘導区域に、医療、福祉、商業施設等の都市機能誘導施設を誘導するなど、運用を行っています。</li> <li>○ 市の実情に応じた多様な交通手段について、持続可能な交通社会と活力ある都市の実現を目指すことを目的に、「寝屋川市地域公共交通網形成計画」の策定に取り組んでいます。</li> <li>○ 都市計画道路対馬江大利線事業を実施し、狭隘道路の解消や、延焼遮断帯として道路整備を進めています。</li> <li>○ 「建築基準法」「寝屋川市開発事業に関する指導要綱」に基づき、狭隘道路（建築基準法第42条第2項道路）に面する開発行為の際には、道路後退整備について指導し、良好な都市環境の保全、形成を図っています。</li> <li>○ 平成22年度に「寝屋川市景観計画」「寝屋川市景観基本計画」を策定し、景観重点地区の指定など地域の特性をいかした良好な景観形成を推進しています。</li> <li>○ 「寝屋川市緑の基本計画」に基づき、緑を増やす取組を推進するとともに、平成31年3月に、「寝屋川市みどりの基本計画改定版」を策定します。</li> </ul>

## ○ 活力と魅力あふれるまち



寝屋川市の現在の主な取組
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 平成 29 年度に策定した「寝屋川市シティプロモーション戦略基本方針」に基づき、平成 30 年度はプロモーション動画の制作を始め、インターネット広告、テレビ番組等を活用し、市の魅力、特長的な施策・事業等を市内外に向けて発信しています。</li> <li>○ スポーツ振興の一環として、学校のグラウンド、体育館、エスポアールの軽スポーツ室などの開放を行っています。他にも、青少年の居場所「スマイル」・「ハピネス」を開設したり、子どもたちが、安心して水に親しみ、水遊びができる「ねやがわプールの」、体力の向上を目指した「エンジョイフェスタ」等の開催をすることで遊び場を提供するとともに、「文化芸術祭」「寝屋川ハーフマラソン」「寝屋川まつり」などのイベント等も開催しています。</li> <li>○ 地域の各種団体においては、コミュニティづくりに向けたイベント等を開催しています。</li> <li>○ サクラ☆プロジェクトの一環として、市が有する様々な地域資源やポテンシャルをいかし、市内外からの集客を促進するため、桜のライトアップなど桜のにぎわいづくりを実施しています。地域産業の活性化を図るため、桜をイメージしたスイーツ（和菓子と洋菓子）を創製し販売しています。</li> </ul>

## ■ 若者たちの意見に対する市の方向性

この章では、市に対する若者の意見が、平成 32 年度を計画初年度とする次期総合計画（第六次寝屋川市総合計画）の策定も含めた、今後の市の施策の推進に当たり、参考にできるものがないかということを検討しました。

若者にとっての理想のまちを話し合ってもらった中で、数多くのキーワードが出されましたが、中でも「安全・安心」「子育て支援」が突出していました。

「安全・安心」については、昨今多発している自然災害、犯罪などにより、平穏な生活を送りたいと切に願っていること、また、「子育て支援」については、そう遠くない未来において、自分の身に起こる現実的な問題として捉えたことから、施策・事業の充実に望んでいるものと推測されます。

また、市に対して、市内外から魅力的だと思われる“何か”を求めている意見が多くありました。

例えば、「生活する環境としては足りないものはないが、友人等に薦められるランドマークとなる場所、遊び場、街並み等がない」という意見です。若者が年を重ねてもなお、市に愛着を持ってもらえるような恒久的な魅力を創造し、市の認知度・イメージを向上させていく取組が必要であると改めて実感しました。

さらに、「市の魅力的なものを、行政においても情報発信してほしい。」という意見もありました。多くの情報を持っている市から、市広報誌だけでなく、若者がよく使う Facebook、スマホアプリ等を使って、魅力的な場所、事業等を若者に知らせてほしいというものです。若者はもちろん、市民がよく利用する情報媒体を用いた情報発信・PR をより進めていくことが極めて重要であると考えます。



## 4 ファシリテーターからのコメント

### ■ 会議総括

#### 未来を想像する「ねやがわ若者会議」からまちを創造する

今年の「ねやがわ若者会議」は、若者が現状に真摯に向き合いつつ、未来を創造するプロセスに加わる可能性を導き出した大切な学びの場となりました。

熊本県庁職員が開発した自治体財政シミュレーションゲーム「SIM2030」の寝屋川市版を使って、これから5年後、10年後、15年後に想像されるシナリオの中で、どのような「時代の判断」を求められていくかを体感したことは、これからの社会人として何をすべきかを学ぶに余りあるものでありました。また、行政が何をやっているかを具体的に知ってもらうツールとしても大いなる実験の場であったと捉えています。

また、これからを考えるとという未来志向の下、セクショナリズムな“部分最適”ではなくバランスとメリハリを利かせた最大幸福公約数の“全体最適”を目指し、対立を対話で乗り越えていく若者の逞しさには目を見張るものでありました。今回は「ゲーム」の形ではありましたが、ここで体感したことはまさにこの世代が歩んでいく道筋そのものです。その意味では寝屋川市における「人生ゲーム」だったのかもしれませんが。

その中で他人事ではなく自分事に考え、自分のまちのビジョンを創造し、それに向かって各々の持ち場で精いっぱい生きていくこと、これからの時代の進路を創り上げていく若者たちに対して、我々大人が一体何ができるかを真剣に考えなければなりません。

まちの将来を語り合う仲間には若者をもっと加えていきましょう。スピードと多様性の時代を切り拓くカギは、この世代との対話の中にあります。もっと若者と大人が日常的に混ざり合う場が必要です。「ねやがわ若者会議」がこれからの“多世代による創造の場”となるよう、更なるブラッシュアップとチャレンジに期待します。

**加留部 貴行**

## 5 おわりに

### ■ 主催者としての感想

本会議は、今年度で3回目となりました。今年度は、ファシリテーターである加留部先生の司会進行の下、午前中は、市職員の講義とワークショップ（若者の寝屋川市に対する思い）、午後からは、まちづくりを体験する対話型シミュレーションゲーム「SIM ねやがわ 2030」を通じ、寝屋川市のこれからを考え、10年後の寝屋川市はどうなっていたら良いかや寝屋川市を良くしていくために若者としてできることについて意見交換を行いました。若者の自由な発想からくる寝屋川市への思いや考えを聞くことができ、とても有意義な会議となりました。特に、今回は、大阪府内では初めて、若者を対象に、SIM2030 を行いました。ゲームを楽しみながら、参加者同士で熱心に意見交換をしている若者の姿は、今後の寝屋川市を担う世代として、非常に頼もしく、また、誇らしく感じました。

本会議は、若者の意見がまちを活性化させ、そして、市だけではなく、市内企業・市民団体の取組にも波及・反映されるような意義のある会議となることを目指してきました。

昨年度は「寝屋川市におけるごみ減量について」をテーマに若者会議を開催させていただき、「分別後の結果が見えにくい」という参加者からの御意見を踏まえ、小型家電のボックス回収を、また、「若者向けに PR するのであれば、SNS 等を活用すべきである」という意見を踏まえ、YouTube での情報発信、ごみ分別アプリの導入に取り組みました。

現在、寝屋川市では、2020 年度を初年度とする次期総合計画（第六次寝屋川市総合計画）の策定を進めており、10 年先、そして 20 年先の寝屋川市が若者にとって「住みたい」「住み続けたい」と思っただけの魅力あるまちとして発展していくために、ゲームやワークショップで若者から頂いた将来へ向けた貴重な御意見を、次期総合計画（第六次寝屋川市総合計画）において参考とさせていただきたいと考えています。

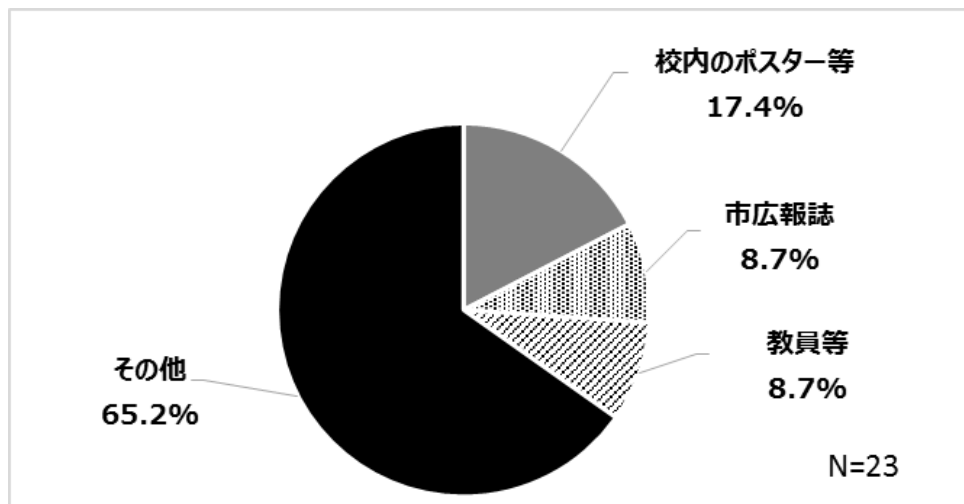
最後に、本会議に参加していただいた皆様を始め、この会議の開催に当たりまして、多大な御尽力をいただきました関係者の皆様に、心から深く感謝申し上げます。

## 【参考】アンケート結果

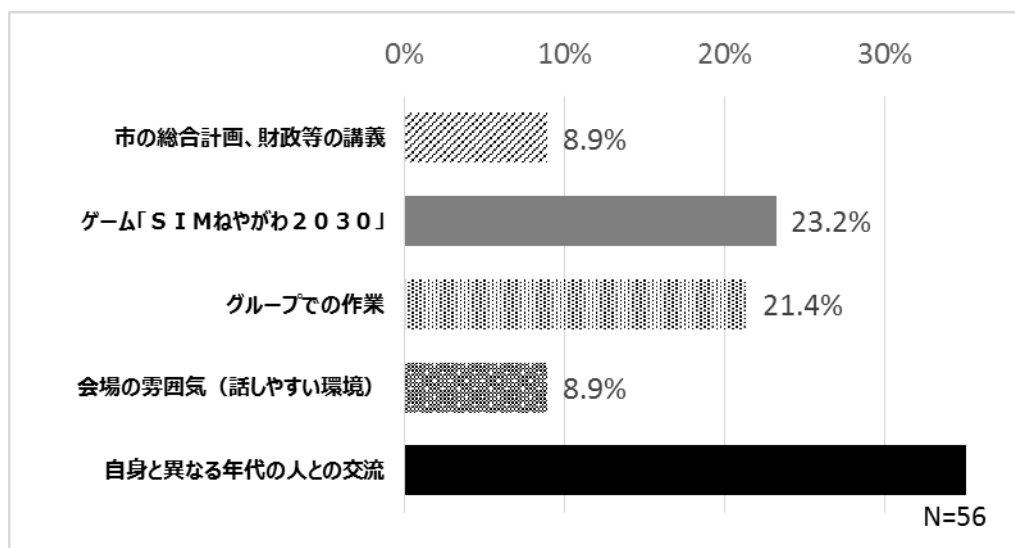
〔アンケート結果について〕

- ・ 各集計の構成比は百分率で表し、四捨五入して小数点第1位で表示しているため、合計が100パーセントにならない場合があります。
- ・ グラフ中のNは構成比を表示する際の母数を示しています（複数回答があったため、一部の質問項目で回答者数を超えた母数となっています。）。

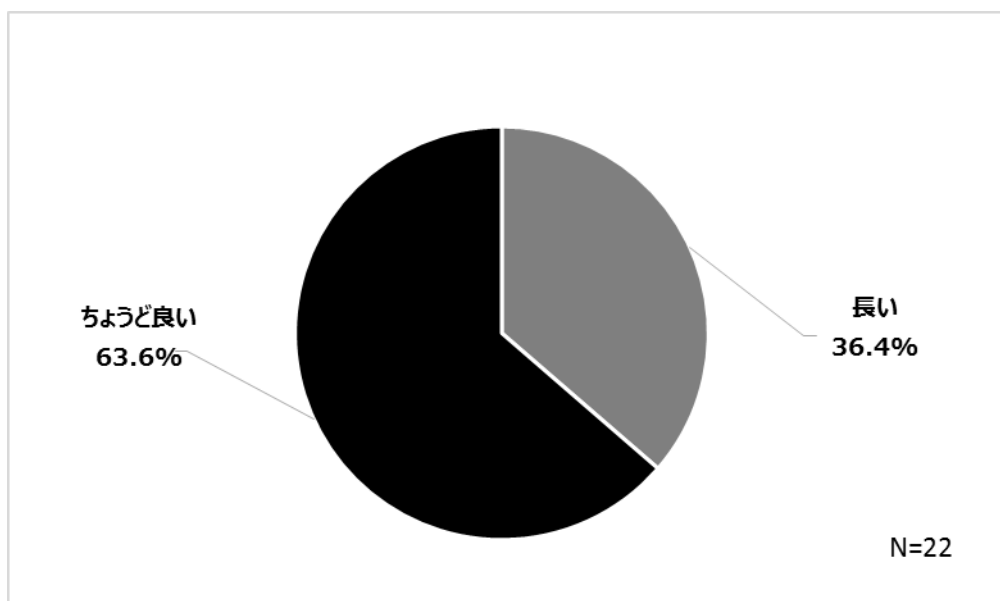
○ どのような方法でこの会議のことを知りましたか



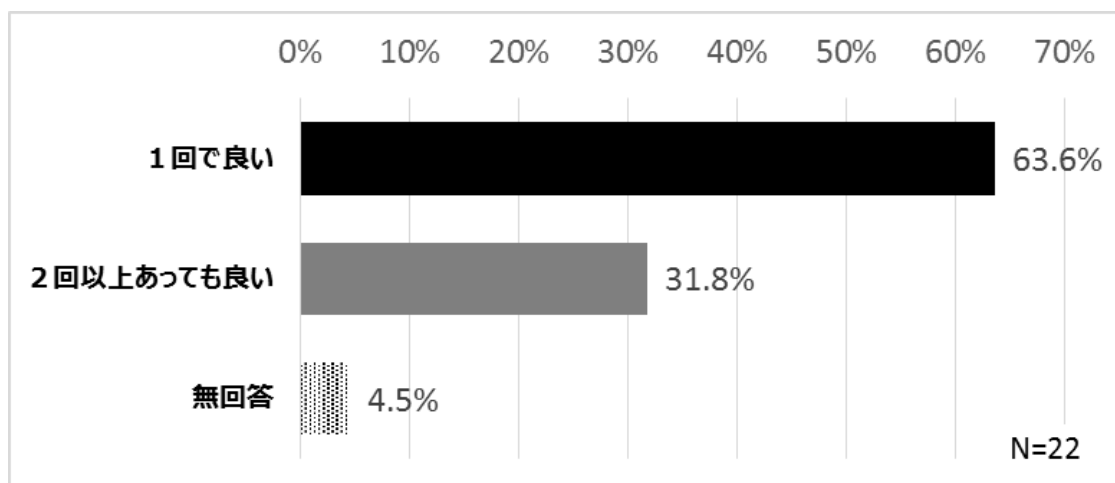
○ 会議で良かったことは何ですか



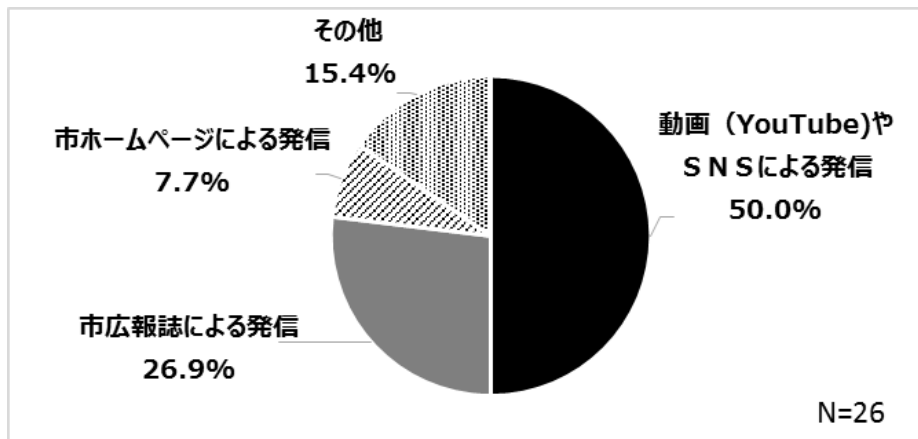
○ 会議の開催時間について、どう思いましたか



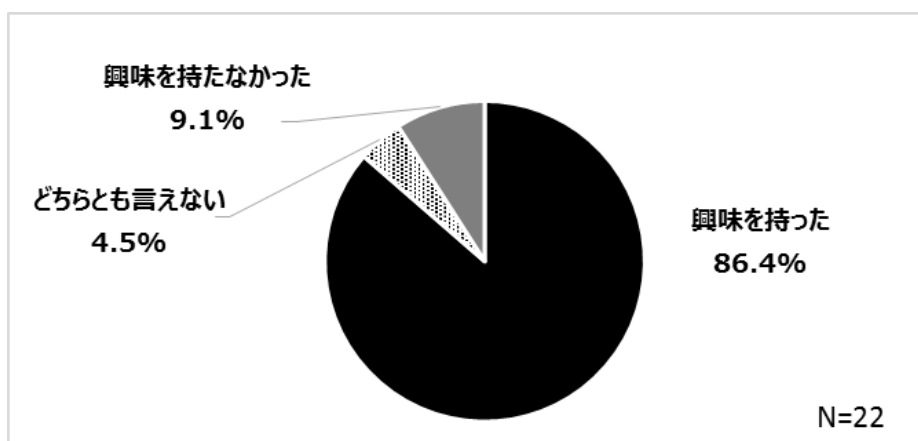
○ 会議の開催回数について、どう思いましたか



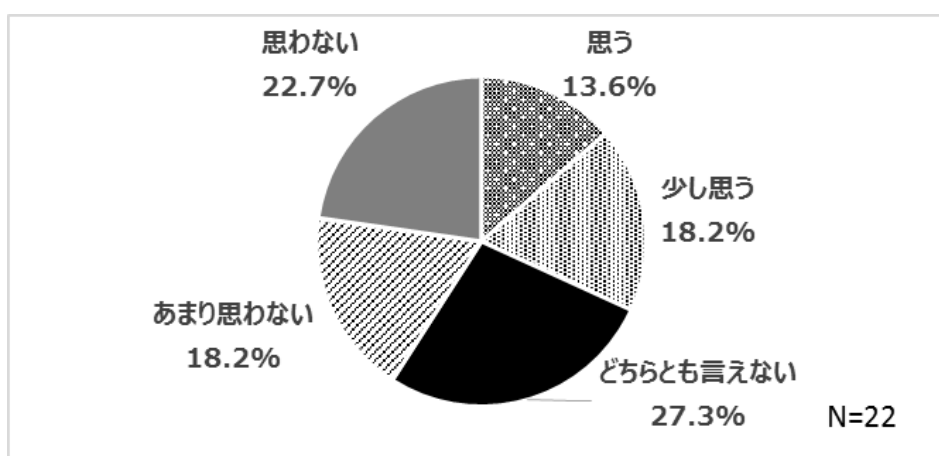
- どうすれば、財政について、若者を含む市民にもっと興味を持ってもらえると思いますか



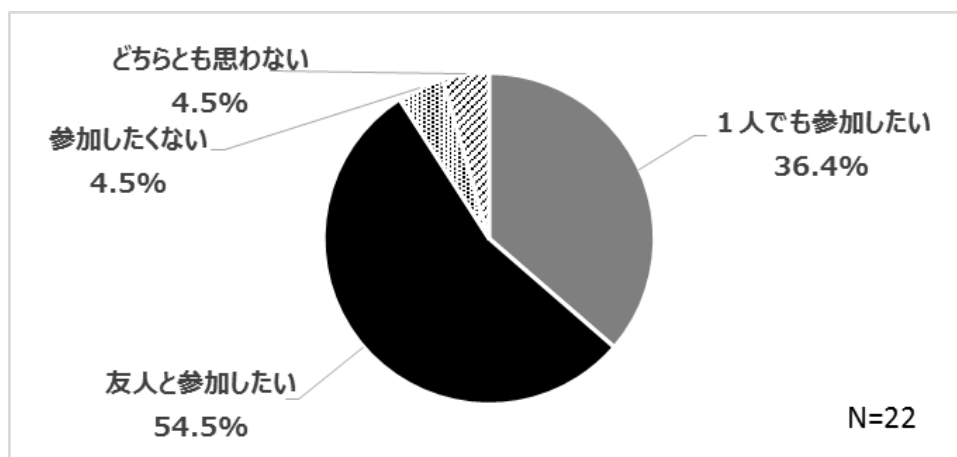
- ゲーム「SIM ねやがわ 2030」を通じて、将来の寝屋川市のまちづくりに興味を持ちましたか



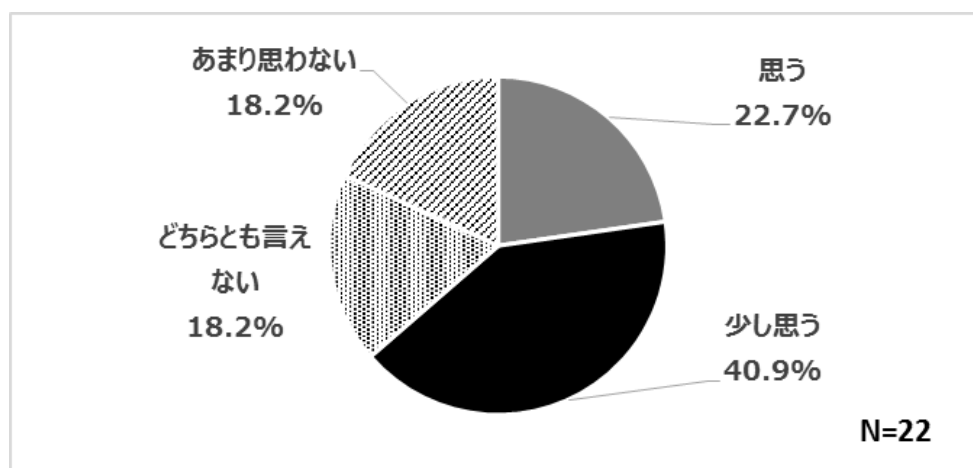
- 今後、寝屋川市役所で働きたいと思いませんか



○ また、会議に参加したいと思いますか



○ 会議参加後、寝屋川市に住むことや来訪することを友人・知人に勧めたいと思いますか



○ 当日の感想等

**主な回答意見**

- ・ 自分と違う世代の人と交流するという、貴重な経験をさせてもらえて、ありがとうございます。
- ・ 市というものがどういうもので成り立っているのかを楽しく知ることができて良かったです。
- ・ 市の総合計画の説明などでもう少し参加者たちの話し合いの時間を増やした方がいいと個人的に感じました。
- ・ シミュレーションゲーム「SIM ねやがわ 2030」では、限られた予算の中で、他の担当部局との利害関係の調整によってまちづくりの事業を取捨選択していく難しさや、議会に説得を試みる際の試行錯誤など、市政のリアルな姿を感じることができて、市政運営の努力によって支えられていると、実感することができました。



**寝屋川を知る  
夏になる!**

日時 平成30年8月9日 木 午前10時

**ねやがわ  
若者会議**

場所 寝屋川市立市民会館  
2階第1会議室

問合せ 寝屋川市経営企画部企画政策課  
☎ 072-824-1181 ・ℹ 072-825-0761  
mail: kikaku@city.neyagawa.osaka.jp

寝屋川市  
NEYAGAWA CITY